

連絡会を振り返って

日本スポーツ少年団指導育成部会員
佐藤 充宏

今回、分散会のみなさんの熱心な協議の様子に触れて、できれば、その様子をビデオに映して、全国のスポーツ少年団関係者に見ていただきたいというほど、みなさんのエネルギーを感じました。

このリーダー連絡会も今回で4年目となり、各ブロックリーダー研究大会も質的に内容が高まってきたと思います。特に、リーダー自身で企画・運営・評価・改善をするように成長してきているところは、この事業の成果であると認識しました。各ブロックにおけるリーダー研究大会の財産として、運営ノートづくりで後輩たちに伝え、新しいプログラムづくりにいかし、それを積み重ねることで、自分たちで研修の場を作っていくことは高く評価できることだと考えます。

今までは研究大会を開催することが目標だった訳ですが、そこから発展して、身近なリーダー活動に活かしていく流れが出来てきたのではないかと思います。

今回、分散会では、都道府県のリーダーの代表として、どのように県内の活動を束ねていくのか、あるいは指導者の立場からどのように育成していくのか、それぞれ3つのテーマで分散会を開きご討議いただきました。立場や抱える問題が違う中で、共通のビジョンづくりをしたうえで、解決策に対する情報交換ができる場になっていたと思います。

これまでスポーツを伝えることは技術を伝えることでした。しかし私たちは気づき始めています。スポーツは技術だけを伝えるものではないということです。人と人とのふれあいの中で文化が伝わっていく、その中でスポーツが伝わっていくものだと思います。スポーツは本人の自由意志によって参加する文化と捉えることができます。リーダー活動も、みなさん自身が自分を高めていく機会として選んでいますし、積極的に自己決定していることに価値があると思います。今後、このような文化が地域スポーツを育てていく力になるでしょう。

それぞれ都道府県に帰ったら、今のリーダーは何が楽しいのか、何が苦しいのか、何ができて、何ができないのか、少年団関係者の方々と話し合いの場を持っていただければと思います。このリーダー連絡会で得た情報を、ぜひリーダー活動の日常の部分に立ち戻って考えて、解決策を話し合う場をつくってみましょう。

講義の中でもありましたが、スポーツを続ける上で、コミュニケーションと主体者意識をもつことは、リーダーやリーダーを育てる担当指導者の方にとって非常に重要だと思います。これからも、地域の人々と様々な場面で対話していき、その中でリーダー活動の質を高めていただければと願っています。